

木 曾 川 森 林 計 画 区

第 三 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

計画期間 自 平成20年 4月 1日
至 平成25年 3月31日

中 部 森 林 管 理 局

目次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	3
	(4) 生産群別の面積等	3
	(5) 標準伐採量	3
	(6) 伐採総量	4
	(7) 更新総量	5
	(8) 保育総量	5
3	林道の整備に関する事項	6
4	治山に関する事項	7
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	
	(1) 保護林の名称及び区域	7
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	9
6	レクリエーションの森の名称及び区域	9
7	その他必要な事項	13
	(1) 施業指標林・試験地等	13
	(2) フィールドの提供	16

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

施業群		面積 (ha)	施業の方法		伐期齢 又は 回帰年 (年)
			施業方法	目標とする森林	
小面積分散型	小面積分散伐区枝打	347.47	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させ、枝打ちにより材の付加価値を高めた森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	50
	小面積分散伐区	563.14	育成単層林施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 60 ヒノキ 65 カラマツ 60
長伐期		2,002.55	育成単層林施業	主伐は、伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返し、下層植生の発達した森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 120 ヒノキ 130 カラマツ 100

施 業 群		面 積 (ha)	施 業 の 方 法		伐期齡 又 は 回帰年 (年)
			施業方法	目 標 と す る 森 林	
人工林複層伐		236.19	育成複層 林施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	スギ 80 カラマツ [60] ヒノキ 85 [65]
人工林長伐期複層伐		359.98	育成複層 林施業	木曽ヒノキの代替材を生産する人工林で、複層伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	180 [150]
漸伐 複層型	人工林漸伐	375.99	育成複層 林施業	人工林及び天然林において、漸伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	80
	天然林漸伐	1,339.19	育成複層 林施業		N 200 L 180
択伐 複層型	人工林択伐 複層型	805.82	育成複層 林施業	人工林及び天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、複数の樹種及び樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	85 (35)
	天然林択伐 複層型	487.86	天然生林 施業		(N 25) (L 35)
木曽ヒノキ択伐		632.01	育成複層 林施業	ヒノキを主とした天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り、ヒノキを主とする複数の樹冠層を構成(階層構造)する森林を成立させる。	(50)
そ の 他		61.38		試験地等においては、その目的に応じた施業を行う。	
合 計		7,211.58			

【注】1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 ()は回帰年、[]は複層林の初回伐採の伐期齡である。

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積

施 業 群	上限伐採面積 (ha)
小 面 積 分 散 型	78.08
長 伐 期	77.03
人 工 林 複 層 伐	27.79
人 工 林 長 伐 期 複 層 伐	20.00
漸 伐 複 層 型	42.88
択 伐 複 層 型	184.81
木 曾 ヒ ノ キ 択 伐	63.20

【注】 上限伐採面積は、計画期間(5年)分の面積である。

(4) 生産群別の面積等

生 産 群	面 積 (ha)	生 産 目 標 等			伐期齢 (年)
		樹 種	生 産 目 標	期待径級	
優 良 柱 材	149.12	ヒノキ	芯持柱材を主とした生産	22cm	50
一 般 用 材	380.65	スギ	一般建築材を主とした生産	22cm	60
		ヒノキ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	22cm	65
合 計	529.77				

【注】1 林地以外の土地及びその他産業活動の面積は含まない。

2 期待径級は、胸高直径である。

(5) 標準伐採量

当計画区の資源の循環利用林面積は僅少であるため、標準伐採量は定めない。

(6) 伐採総量

(単位: m³、ha)

区 分		林 地					林地 以外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
水 土 保 全 林	国 土 保 全 タ イ プ		(764.24) 47,154	47,154				
	水 源 か ん 養 タ イ プ	小面積分散伐区枝打		2,138	2,138			
		小面積分散伐区	2,384	6,202	8,586			
		長 伐 期		12,914	12,914			
		人 工 林 複 層 伐	6,970	2,118	9,088			
		人工林長伐期複層伐		4,178	4,178			
		人 工 林 漸 伐		1,123	1,123			
		人 工 林 択 伐		2,894	2,894			
		木曾ヒノキ択伐	500		500			
		小 計	9,854	(458.22) 31,567	41,421			
		計	9,854	(1,222.46) 78,721	88,575			
森林と人との共生林	森 林 空 間 利 用 タ イ プ		(59.78) 3,707	3,707				
資 源 の 循 環 利 用 林	一 般 用 材	8,086	4,629	12,715				
	優 良 柱 材	9,877	3,316	13,193				
	人 工 林 漸 伐		329	329				
	計	17,963	(97.22) 8,274	26,237				
合 計		27,817	(1,379.46) 90,702	118,519	5,481	124,000	124,000	
年 平 均		5,563	(275.89) 18,141	23,704	1,096	24,800	24,800	

【注】()書きは、間伐面積である。

(7) 更新総量

(単位:ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成		3.26	3.26				53.65	56.91
	複 層 林 造 成								
	計		3.26	3.26				53.65	56.91
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類	46.75	16.47	63.22					63.22
	天 然 下 種 第 2 類								
	計	46.75	16.47	63.22					63.22
合 計		46.75	19.73	66.48				53.65	120.13

(8) 保育総量

(単位:ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 か ん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
保 育	下 刈		65.23	65.23				163.68	228.91
	つる切	313.06	195.99	509.05	8.53	15.95	24.48		533.53
	除 伐	261.66	225.07	486.73					486.73
	枝 打	12.34	153.85	166.19					166.19

3 林道の整備に関する事項

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長 (m)	備考	
基幹	開設	—	—	—		
	改良	白川付知	東濃 4~41	3箇所	60	
		瀬戸川高樽	〃 70~71	3箇所	50	
		阿寺タツガヒゲ	〃 116~119	5箇所	70	
		恵那山	〃 1007~1097	6箇所	125	
		阿木恵那	〃 1032~1050	3箇所	45	
		白井沢合川（白井沢）	〃 1055~1073	3箇所	40	
		白井沢合川（合川）	〃 1091~1094	3箇所	40	
		阿岳谷鯉子	〃 1065	1箇所	20	
		恵那山中腹（上流側）	〃 1017	1箇所	20	
		夕森田立（川上線）	〃 2003	1箇所	20	
計		29箇所	490			
その他	開設	高時山（カシモ谷）	東濃 14、15林班	1箇所	600	
	改良	川上	東濃 2021	1箇所	100	
		高時山（カシモ谷）	〃 15	1箇所	20	
		オケゴヤ	〃 52~56	2箇所	30	
		出水谷	〃 84	1箇所	20	
		ホコロ沢	〃 1076	1箇所	20	
		橋ヶ谷	〃 1039	1箇所	20	
		乙女谷	〃 1059	1箇所	20	
		檜根（下流側）	〃 1056	1箇所	40	
		黒井沢	〃 1018	1箇所	20	
		賤母沢	南木曾 698	1箇所	50	
計		11箇所	340			
合計	開設		1箇所	600		
	改良		40箇所	830		

4 治山に関する事項

(単位: 保全施設＝「箇所」、保安林の整備＝「ha」)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
東濃 1～99、100～151、152～174、1001～1039、1041～1051、1052～1097、 2003～2032、2201～2206、2224～2269、2207～2223	保全施設	溪間工	48
東濃 1～99、100～151、152～174、1001～1039、1041～1051、1052～1097、 1098～1110、1111～1116、1117～1127、2201～2206、2224～2269、 2207～2223		山腹工	50
東濃 2207～2223		運搬路 等	1
東濃 1～99、100～151、152～174、1003～1025、1026～1051、1052～1097、 1098～1110、1111～1116、1117～1127、2003～2032、2201～2269	保安林の 整 備	保育外	1251.68

(注) 保全施設の計画量「箇所」数は、「単位流域」数を表す。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

種 別		林 木 遺 伝 資 源 保 存 林			
名 称	新設 既設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
名古屋ヒノキ サワラ10	既設	44.16	東濃 88い	ヒノキを主体に一部サワラが混生している天然林である。	原則として、伐採は行わない。 ただし、保存対象樹種の安定的な存続を図るために必要な場合は、枯損木、被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。
賤母ヒノキ等	既設	71.46	南木曾 700い、ろ、701い	木曾ヒノキ、モミ、ツガ、コウヤマキ等の天然林である。	
面積計		115.62			

種 別		植 物 群 落 保 護 林			
名 称	新設 既設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
東股木曾五木	既設	8.59	東濃 124ち、125と	ヒノキ、サワラ、 ヒバ、コウヤマキ等 がまとまって生育し ている。	原則として、人手を加えず 自然の推移に委ねた保護管 理を行う。
恵那山シラベ	既設	492.21	東濃 1010全、1015全、 1016は、1020全、 1021い、ろ	岐阜県における、 シラベの南限にあた る。	
小里コウヤマ キ	既設	18.73	東濃 1117ろ、に、ほ	コウヤマキの分布 下限近くに位置する 林分である。	
賤母ヒノキ等	既設	20.68	南木曾 698わ、か、よ、 た、699い、ろ、 は、に、へ、ち、 イ、700は <u>(木曾谷森林計画区内を 含む合計50.97)</u>	温・暖帯の森林植 生の接点に当たる箇 所であり、急峻な斜 面に500種以上の植 物が生育し、木曾谷 の一般的な森林と異 なる特異な植生を形 成している。	
面 積 計		540.21			

種 別		郷 土 の 森			
名 称	新設 既設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
いわむら	既設	47.86	東濃 1102ほ、へ、 1103ろ、は、に、 ほ、へ、と、ち、 り、ぬ、る、 1104全、1105ろ	岩村城跡周辺に旧 藩時代のスギ、ヒノ キ、アカマツ等の林 分が残されている。	自然の推移に委ねた保護 管理又は現状の維持に必要 な森林施業を行うことを基本 とし、保護・管理・利用計画 書により行うものとする。
面 積 計		47.86			

(2) 緑の回廊の名称及び区域
該当無し

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種別		自然休養林				
名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
付知峡	既設	521.65	東濃 1に、2に、4い、に、と、 9は、10と、ち、ぬ、11は、 に、ぬ、12に、13に、 14は、18ろ、19と、29は、 に、ほ、30ほ、ち、り、 43ろ、は、に、ほ、46ろ、 48は、ち、49い、ろ、は、 に、ほ、へ、50ろ、に、ほ、 へ、と、51へ、54ろ、 55い、58い、59は、に、 60い、ろ、61ろ、76へ、 77い、ろ、は、へ、78い、 79い、ろ、に、80い、 97い、98い	裏木曾県立自然公園内にあり、付知川の清流、大小様々の滝、清流に沿って生育する木曾ヒノキ、サワラ、シデ、カエデ等の針広混交の天然林と、人工林が優れた峡谷美を呈しており、キャンプ、自然観察等多様な森林レクリエーションの場として適している。	スギ、ヒノキ等の人工林については、混入している広葉樹の保残を図り、針広混交林としつつ、大樹の森に誘導する。 ヒノキ、サワラ等の天然林については、自然の推移に委ね、現状林分の維持に努める。	育成複層 林施業
			東濃 1は、2ろ、は、4は、5ろ、 は、ほ、7ろ、は、8ろ、は、 に、9ろ、10ろ、ほ、へ、 11へ、19へ、29ろ、30へ、 46に、48に、50は、55は、 58ろ、77に、ほ、78ろ、 は、に、79は、80ろ、 97ろ、98ろ			天然生林 施業
			東濃 4口、ハ、29イ、50イ、ロ、 58イ、79イ			林地以外
面積計		521.65				

種別		自然観察教育林				
名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
アライ ダシ	既設	9.80	東濃 1086へ	木曾ヒノキ、ツ ガ、ブナ、ミズナラ 等多様な樹種が混生 し、自然観察の場と して適している。	ヒノキ、サワラ等の 天然林は、現状林分 の維持を基本とする。	天然生林 施業
面積計		9.80				

種別		森林スポーツ林				
名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
乙女 溪谷	既設	13.92	東濃 174ち、り、ぬ ----- 東濃 153に、174と	シャクナゲ、ミヤ マツツジ、コブシ等 に彩られた溪谷が優 れた自然景観を呈し ている。 溪流沿いには、キ ャンプ場が整備され ており、森林スポー ツの場として適して いる。	ヒノキの人工林につ いては、広葉樹の導 入を図る等、多様な樹 種から構成される、明 るい森林に誘導する。 ヒノキ、サワラ等の 天然林については、混 入している広葉樹の保 残等を図り、利用に当 たって快適な森林に誘 導する。	育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業

種別		森林スポーツ林				
名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
ケヤキ 平	既設	11.94	東濃 2227い、は、2230と	スギ、ヒノキの人工林とケヤキ、トチノキ、ミズナラ等広葉樹の天然林からなる森林で、林内にはキャンプ場が、周辺には運動公園が整備され、森林スポーツの場として適している。	スギ、ヒノキの人工林については、広葉樹の導入を図る等、多様な樹種から構成される、明るい森林に誘導する。 サワラ等の天然林については、混入している広葉樹の保残等を図り、利用に当たって快適な森林に誘導する。	育成複層 林施業
			東濃 2227ほ、2230ほ			天然生林 施業
			東濃 2230イ、ロ、ハ、ト、チ			林地以外
面積計		33.60				
タ森	既設	7.74	東濃 2028-Iは	川上川を中心に国設野営場が開設されており、民有林と共にキャンプ、ハイキング、釣り等森林スポーツの場として適している。	ヒノキ、サワラ等の天然林は、自然の推移に委ね、現状林分の維持に努める。	天然生林 施業
		東濃 2027イ	林地以外			
面積計		33.60				

種別		野外スポーツ地域				
名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
奥三界	既設	8.90	東濃 2016-Iへ、2016-IIに	奥三界岳山頂を中心に、ハイキング、登山等野外スポーツの場として適している。	ヒノキ、コメツガ等の天然林は、自然の推移に委ね、現状林分の維持に努める。	育成複層 林施業
			東濃 2014-IIろ、は			天然生林 施業
面積計		8.90				

種別		風致探勝林				
名称	新設 既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業等	
東股	既設	44.82	東濃 145い、ろ、ほ、へ、と、り ----- 東濃 145は ----- 東濃 145口	東股谷の溪谷や不動滝と一体となって優れた自然美を構成する森林で、自然探勝に適している。	スギ、ヒノキ等の人工林については、針広混交林に誘導する。 サワラ等の天然林については、自然の推移に委ね、現状林分の維持に努める。	育成複層 林施業 ----- 天然生林 施業 ----- 林地以外
富士見台	既設	44.08	東濃 2239へ、 2240と ----- 東濃 2233イ、2234イ、ロ、ハ、 2235イ、2238-Ⅱイ、 2239イ、2240イ	神坂峠を中心とする富士見台高原一帯の地域である。神坂峠は奈良時代の東山道の要衝で、文化財にも指定されている祭祀遺跡がある。 「富士見台」からは恵那山の他、北、中央、南アルプスが眺望でき、ハイキング等自然探勝に適している。	ヒノキ、サワラ等の天然林は、自然の推移に委ね、現状林分の維持に努める。	天然生林 施業 ----- 林地以外
夕森	既設	9.21	東濃 2003い、ぬ、2004へ、 2010い、2026ち	川上川沿いの木曾ヒノキ、ヒバ、コウヤマキ等の森林と水触によりホールが形成された河川や滝等が特異な自然景観を呈し、自然探勝に適している。	ヒノキ、ヒバ等の天然林は、自然の推移に委ね、現状林分の維持に努める。	天然生林 施業
面積計		98.11				

<参考> レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業等

対象 団地	面積 (ha)	位 置	施 業 等	
川 上	103.26	東濃 2014-I い、2014-II い、2015ろ、2016-I は、ほ、と	奥三界野外スポーツ地域の周辺で木曾ヒノキ等を主とする天然林で構成される。必要に応じ人為をくわえ多段林に誘導する。	育成複層 林施業
		東濃 2006は、2007は、2013ろ、2014-I ろ、2016-II は		天然生林 施業
		東濃 2014-I イ、2014-II イ		林地以外
湯舟沢	83.01	東濃 2227ろ、2239に	ケヤキ平森林スポーツ林及び富士見台風致探勝林の周辺で、主に木曾ヒノキ、サワラ等を主とする天然林で構成される。必要に応じ人為をくわえ多段林に誘導する。	育成複層 林施業
		東濃 2230へ、2233た、2234に、2235ほ、2238-II は、 2239ろ、ほ、2240ろ、2241ろ、に		天然生林 施業

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備 考
施 業 指標林	木曾ヒノキ ポドゾル地帯 天然更新 施 業 林	S 5 3	13.13	東濃 118は	木曾ヒノキポドゾル地帯（ササ型林床）における天然更新の確立に向けて、収穫から更新に至る施業の指標になる林分である。
	前更皆伐 天然下種更新 施業指標林	S 5 9	2.20	東濃 52ろ	伐採前に後継樹を発生・生育させることにより、更新を確実にを行うための指標になる林分である。
試験地	西股ヒノキ 人工林 収穫試験地	S 3 9	1.41	東濃 21ろ	成長量、収穫量、その他の資料を収集し林分構造の推移を解明する。
	阿木恵那 ヒノキ 人工林 収穫試験地	S 3 7	0.52	東濃 1041ろ	同 上

種類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備 考
試験地	阿木恵那スギ 人 工 林 収 穫 試 験 地	S 3 8	0.58	東濃 1041か (旧よ)	成長量、収穫量、その他の資料を収集し林分構造の推移を解明する。
	出ノ小路 ヒノキ天然生 林林分成長量 固定調査地	S 2 9	3.65	東濃 93ろ	天然林における成長量、枯損量等の資料を収集し、林分構造の推移を解明する。
	東股ヒノキ・ サワラ天然生 林林分成長量 固定調査地	S 2 9	4.47	東濃 119ろ	同 上
次 代 検定林	関名第1号 一般ヒノキ	S 5 0	0.58	東濃 31へ	精英樹クローンの交配種子を用いて養成した苗木を植栽し、精英樹の遺伝的素質を検定するための林分である。
	関 耐 寒 風 名 営 3	S 6 0	0.23	東濃 1006と	選抜された抵抗性個体の気象害または病虫害による被害の程度、生長およびその他の特性を調査し遺伝的素質の優劣を検定するための林分である。
	関長第3号 (一般)	S 3 9	0.69	東濃 2237は	精英樹クローンの交配種子を用いて養成した苗木を植栽し、精英樹の遺伝的素質を検定するための林分である。
母樹林	木曾ヒノキ	S 4 8	40.59	東濃 88い	林木育種事業を計画的能率的に実施するため、樹形・材質が優良な種子を採取する林分である。
遺伝子 保存林	天ヒノキ	S 4 4	3.65	東濃 93ろ	林木育種事業を計画的能率的に実施するため、現存する林木の優良遺伝子群を確保保存し、遺伝子補給源として活用する林分である。
	ヒノキ	S 4 4	2.00 0.50	東濃 143ほ、 143る	同 上

種類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備 考
精英樹 保護林	ヒ ノ キ 付 知 1 号	S 3 5	0.27	東濃 102は	現存林木の中から成長、形質の特に優れた 個体を精英樹として選出し、それらを保護、 保存するための林分である。
	ス ギ 中 津 川 1 号	S 3 1	0.66	東濃 1099は	同 上
	ヒ ノ キ 中 津 川 2 号	S 3 1	0.23	東濃 1106は	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 1、2 号	S 3 2	0.15	東濃 2206は	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 3 号	S 3 2	0.10	東濃 2206に	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 4 号	S 3 2	0.10	東濃 2208は	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 5 号	S 3 2	0.10	東濃 2208ろ	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 6 号	S 3 2	0.10	東濃 2208に	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 7 号	S 3 2	0.10	東濃 2209ろ	同 上
	ヒ ノ キ 坂 下 8 号	S 3 2	0.10	東濃 2209は	同 上

種類	名 称	設定 年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備 考
巨樹・ 巨木林	笠 木 (ヒノキ)	H 1 2	0.82	東濃 1059む、 1060こ	「巨樹・巨木に係る自主的な保全活動の推進について」(平成11年12月20日付け林野業第182号林野庁長官通達)により選定された巨樹・巨木が賦存する林分である。
	神 坂 大 檜 (ヒノキ)	H 1 2	(29)	東濃 2248い (一部)	
森林施 業モデ ル林	国土保全タ イプモデル林	H 1 2	0.54	東濃 1109る	公益的機能重視の森林施業の取り組みを国民に分かりやすくアピールするために設定するモデル林である。
		H 1 5	1.32	東濃 2027り	

(2) フィールドの提供

ア ふれあいの森

名 称	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定の目的等
大 桧 の 森 (平成15年度設定、 平成19年度箇所拡充)	17.69	東濃 湯舟沢国有林 2240い、は、に、ほ、 へ、ち、2241ち	ボランティア団体等が行う自主的な森林整備を推進するためのフィールドとし設定 協定相手方：恵那山みどりの会

イ 木の文化を支える森

名 称	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定の目的等
裏木曾古事の森 (平成16年度設定)	23.20	東濃 加子母裏木曾国有林 77い	貴重な歴史的建造物に必要な大径木の森づくりに取組み、木の文化を未来に継承していくために設定。 協定相手方：裏木曾古事の森育成協議会